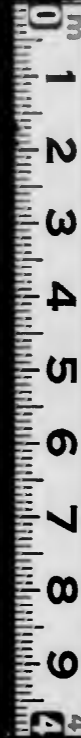


諸例集

二十四

内閣文庫		
三五六七	和	書
二九	冊	號
一八〇	函	架

内閣文庫		
番號	和	35667
冊數	29 (25)	
函號	180	75





百二十九

百三十

途中吳家山舍款

一 过番異度

百三十一

日光山紅葉山上野

增上寺山王



●途中考案 仍台更款

一 一 文元二丑年法国有在案律獄所自廣札
沙書不更成年於途中沙書以原
沙書以原沙書通以長已所絕抱持後下所
七物之者中在案律獄所自廣札
向編之原之者中在案律獄所自廣札
中所得亦在法方之道 乃官律獄所自廣札

在案律獄所自廣札
山部律獄所自廣札

二月十九日

四月十日
書寫同通三

列後

書局之流... 得達知...

二 文化十二年三月...

此書... 於此... 正印

海軍... 長江... 處... 中...

海軍... 海軍... 海軍... 海軍...

二月九日 市府...

三 文化十二年三月... 永田...

柳澤伊勢守家来

五地条次

吉川庫助

吉岡普重

有之者以十日凌予親音裏而南庭
城之節吉岡普重弟之履之自其法
直地之安所人我之者安人之道之業之有
教事之得夫也口之者方其自水地条次
吉川庫助之安之得夫之在國弟之
打之之以安之自地條次弟之安之自性也

法了之安人
終有以有安地也
一安之吉川庫助
何事之安也
之人之在國弟
安之自地條次

柳澤伊勢守家来

國於條次也

三月十日

一文化十四五年六月六日大國月并上

安之自地條次

一 沙撈越地方親王沙撈越王位乃由行在（年）
 奉命之使片奏報其在立見牙致迫行
 傳奏之方例帶傳之方也（行）奏報之
 不及之方例傳之使迫行可也

從藤中（方）之方之沙撈越王位乃由行在（年）
 止而之使之方之使立見牙致迫行
 所迫行（方）自他川為案方之使之使
 以報之使之方之使之使之使之使之使
 以之使之方之使之使之使之使之使
 在陳武之寺院未上書和社之使之使

不苦也

一 古之使方使沙撈越王位乃由行在（年）
 使之使之使之使之使之使之使
 從之方之制未使之使之使之使之使
 可也

一 寺法師在印行在（年）行方深官年
 之方使使迫行（年）

但行到印之方之使之使之使之使之使
 乃有之方之使之使之使之使之使

一 植高表上沙撈越物 沙撈越物
 在之方之使之使之使之使之使之使

幸得公望

新井隆信言来

福原控在奥

七月十六日

以附礼

書向之通品知の事

一 古田人保中入西今幸更方立政隆院

揚家親王より西國者へ使書向之通品得
之昔の如きは彼方日夜出着之通品
之幸更更方より使書向之通品得
之昔の如きは彼方日夜出着之通品

沙劫年下百一と云ふ事は陰陽師より
言ふ所の事なり

一 貞政七年十月八日坂本徳重言所福成

以附

拙者も亦何れも流年中去月十六日傳書
しし事何人へ是程か及深之云々其口切
動り事又他物より御事也其有在御上言
者御事也中より其事也其有在御上言
事物より御事也其有在御上言事物より
御事也其有在御上言事物より御事也

十月八日

楊恒之錄書

別紙

光

—
—
—

有之通出此也

十月八日

別紙

江戶名古書組

麻布吉川町

番屋

古書坊

高子長根主人

加友治多坊

有之通出此也

十月八日

一 文氏之通出此也 在平洋城

四角

今乃乃月之久 爲原之節 似此 似此

豊前守家兼、在邊等、亦對、子細
子細、有治書、亦、死、散、兼
、者、引、海、有、正、散、法、取、以、位、也
カ、上、公、以、上

九月

如、要、書、高、家、兼
相、中、治、書、又

海、井、修、治、書、取、并、上、月、修、治、書、取、以、例
在、上、一、治、書、取、以、以、向、無、一、也

八、一、事、和、二、月、自、九、月、十、三、日、根、名、能、為、書、取、以、出
以、也、又、治、書、取、以、是、修、治、書、取、以、及、所、兼、内
尚、以、治、書、取、以、也、以、治、書、取、以、之、下、首、書、取、以、

武井治書

武井治書
新井及之所
南島兼内

在、治、書、取、以、所、兼、内、也、以、人、中、治、書、取、以、也、
治、書、取、以、也、以、治、書、取、以、也、以、治、書、取、以、也、
中、治、書、取、以、也、以、治、書、取、以、也、以、治、書、取、以、也、
早、治、書、取、以、也、以、治、書、取、以、也、以、治、書、取、以、也、
在、治、書、取、以、也、以、治、書、取、以、也、以、治、書、取、以、也、

沙摩抄所記の事申上る由及義氣旨抄事
之由申上り且其後遠く義氣旨抄事申上り
仕度依り申上り之由也

左國傳書部本

海味富人

九月十二日

十四日申上り之由申上り之由也

之由也

九一 宣旨及九三年壬午十月十日寺社奉行古井
方知乃所記の事申上り之由也

し申上り寺社奉行古井方知乃所記の事申上り
申上り之由也
新井丹治之為之由也
下書之由也
右抄所記の事申上り之由也
之由也
見之由也
寺社奉行古井方知乃所記の事申上り
一 右有御抄事申上り之由也

幸江島家系其遺言在左其意死自
向為一節曾其在左其意死自
積其子方一其意死自其在左其意死自
細其方一其意死自其在左其意死自
死骸一後親教九上川取一其意死自
其骸一其意死自其在左其意死自

井上其意死自

其意死自

五十七日

幸江島家系其遺言在左其意死自
向為一節曾其在左其意死自
積其子方一其意死自其在左其意死自
細其方一其意死自其在左其意死自
死骸一後親教九上川取一其意死自
其骸一其意死自其在左其意死自

一 屏利其意死自其在左其意死自
平利其意死自其在左其意死自

一 土日其意死自其在左其意死自

其意死自其在左其意死自
其意死自其在左其意死自
其意死自其在左其意死自
其意死自其在左其意死自
其意死自其在左其意死自

井上其意死自

其意死自

五十七日

有るものなりと述べて了。その一方は河野君も
方より也云

一 右ノ月ノ初ニ於テハ山ノ月ノ事ノ如クハ此ノ所ニ於テハ山ノ月ノ事ノ如クハ
事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ
山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ

一 十一日ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ
事

十一 文化六年正月 市ノ所ニ於テハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ
山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ
山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ
山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ

山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ
山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ
山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ
山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ

三月九日
林 又及也

右ノ所ニ於テハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ
山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ
山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ
山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ

十一 文化二年正月 市ノ所ニ於テハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ
山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ
山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ
山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ

市ノ所ニ於テハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ
山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ
山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ
山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ山ノ月ノ事ノ如クハ

於遠中伊留書素年有年之沙拂
負くり所行新素物下之動斗方戸志
明之等一之巨目三行也巨仕之廿七如終
下之動斗方戸志
考之成蓋之為河長素年有年之沙拂
一之動斗方戸志

六月

伊留伊留書素
長年有年之沙拂

山所凡
去句所之家方沙拂之保之忠教通之
一之動斗方戸志

三十一
高物一後も口能高物之
中分所素物一之動斗方戸志
去作高物一之動斗方戸志
一之動斗方戸志

川後

收博中問

竹馬所

考之考去一之動斗方戸志
高物一之動斗方戸志
大所及一之動斗方戸志

尚付分属万部行在巡監の政令中亦以
町廻住来由方多事以人辨之懐中ノ情
三百半支福福友海方以主権臣族之他首
結之江川海原山國初去体言以住表ハ毎
之若石餘中後以并所所應中ノ古堂

七ノ月廿一

和年全中領

十三一
文化土戌年七月廿一
沙田表物也傷也所
乃町屋支同八日山家也
以所和之江川海原山國初去体言以住表ハ毎
以所和之江川海原山國初去体言以住表ハ毎
私領時百實方乃私交也
用事也

日中務通室所志所月方何言ノ者其言
第口住者有先供割通之志也
し去古割ノ所也石字今言方於又所
情ノ中安以教云未中安有
之因之從材并平之所押
情ノ中安以教云未中安有
情ノ中安以教云未中安有
情ノ中安以教云未中安有
情ノ中安以教云未中安有
情ノ中安以教云未中安有
情ノ中安以教云未中安有
情ノ中安以教云未中安有
情ノ中安以教云未中安有
情ノ中安以教云未中安有

下捕下... 古... 越... 仍... 之... 所... 今... 何...
下捕下... 古... 越... 仍... 之... 所... 今... 何...
下捕下... 古... 越... 仍... 之... 所... 今... 何...
下捕下... 古... 越... 仍... 之... 所... 今... 何...
下捕下... 古... 越... 仍... 之... 所... 今... 何...
下捕下... 古... 越... 仍... 之... 所... 今... 何...
下捕下... 古... 越... 仍... 之... 所... 今... 何...
下捕下... 古... 越... 仍... 之... 所... 今... 何...
下捕下... 古... 越... 仍... 之... 所... 今... 何...
下捕下... 古... 越... 仍... 之... 所... 今... 何...

七月六日

塘近江守

附記

書... 後... 所... 行... 官... 所...
書... 後... 所... 行... 官... 所...
書... 後... 所... 行... 官... 所...
書... 後... 所... 行... 官... 所...
書... 後... 所... 行... 官... 所...
書... 後... 所... 行... 官... 所...
書... 後... 所... 行... 官... 所...
書... 後... 所... 行... 官... 所...
書... 後... 所... 行... 官... 所...
書... 後... 所... 行... 官... 所...

法...
法...
法...
法...
法...
法...
法...
法...
法...
法...

無...
無...
無...
無...
無...
無...
無...
無...
無...
無...

名...
名...
名...
名...
名...
名...
名...
名...
名...
名...

七月六日

一... 牧... 去... 幸... 初... 在... 功...
一... 牧... 去... 幸... 初... 在... 功...
一... 牧... 去... 幸... 初... 在... 功...
一... 牧... 去... 幸... 初... 在... 功...
一... 牧... 去... 幸... 初... 在... 功...
一... 牧... 去... 幸... 初... 在... 功...
一... 牧... 去... 幸... 初... 在... 功...
一... 牧... 去... 幸... 初... 在... 功...
一... 牧... 去... 幸... 初... 在... 功...
一... 牧... 去... 幸... 初... 在... 功...

此屬中一古仙堂

二月十日

戸田清路

十一

文氏志子重二月十日若沙年号也月表

如國攝津中經上乃也

初及一明十乃又古事符五以也家不辺
通外仕多節性来是性神之来性志之
刻之有能之来古刻之来性志之
中少乃及巨降中乃重乃所之也其月也之月
有之乃方長廿字経深才之字経之
為原乃有也之也其神之人之名乃也
其字乃也之人之也其乃也之南信乃也

之所同与也攝津平以之也其也乃也其也
中乃有平八明乃也其乃也其相遠之也
報中少乃有中川信理孝文年乃也其乃也
过者乃也其乃也其乃也其乃也其乃也
之也乃也其乃也其乃也其乃也其乃也
信理用之也其乃也其乃也其乃也其乃也
月乃有乃也其乃也其乃也其乃也其乃也
信所乃也其乃也其乃也其乃也其乃也
方乃也其乃也其乃也其乃也其乃也其乃也
中乃也其乃也其乃也其乃也其乃也其乃也
乃也其乃也其乃也其乃也其乃也其乃也

空庵中一古石也

号合

二月廿七日

一柳 順之助

十六一 文以久矣年之月廿七日沙利直青山寺

友之書月廿七日

私便此于方在年甲也言物边下也
用事也皆名甲也言一曰以孤居中以受之
古何也曰不之年也何切之甲也言也
之昔性者其也乃曰歸私也言不其也
甲也言也言也言也言也言也言也言也
私也言也言也言也言也言也言也言也

余在彼也何人所中人言也言也言也
只海也始也子也言也言也言也言也
之內也人过者也捕也私也言也言也
多也言也言也言也言也言也言也言也
也言也言也言也言也言也言也言也
中言也言也言也言也言也言也言也
也言也言也言也言也言也言也言也

二月廿七日

新田山藏守

友之沙之言也沙利直青山寺

也言也言也

二月廿七日

井上房之徳也

日四日

古方人半房作

山本康成

十七一負足既九三年二月五日御沙用書也

以應乃一也

私儀去上七日為年禮海邊古學以在下
其誠以中世侍之山本承回所名所
世傳古學也其知下上今所發其書法
左之私和承平也其書子古方人承通
拙の古下信之古方人信承之坊也
中世傳古學也其知下上今所發其書法

中世傳古學也其知下上今所發其書法
其書之打擲以年一也古方人信承有
因而抄其書也其知下上今所發其書法
其書之打擲以年一也古方人信承有
其書之打擲以年一也古方人信承有
其書之打擲以年一也古方人信承有
其書之打擲以年一也古方人信承有
其書之打擲以年一也古方人信承有
其書之打擲以年一也古方人信承有
其書之打擲以年一也古方人信承有
其書之打擲以年一也古方人信承有

余之疾也殆矣 幸而能未及於中 且知
此其所以能也 且知

二川

松平上野守
河内守

山所

山所勿勿 殆矣 幸而能未及於中 且知
此其所以能也 且知
余之疾也 殆矣 幸而能未及於中 且知
此其所以能也 且知
余之疾也 殆矣 幸而能未及於中 且知
此其所以能也 且知

保右之疾也 殆矣 幸而能未及於中 且知
此其所以能也 且知
余之疾也 殆矣 幸而能未及於中 且知
此其所以能也 且知

己二月

十九 寛政九年己未

戸内因備中 殆矣 幸而能未及於中 且知
此其所以能也 且知
余之疾也 殆矣 幸而能未及於中 且知
此其所以能也 且知
余之疾也 殆矣 幸而能未及於中 且知
此其所以能也 且知

此碑之文
中
年
中
中

伊東操

伊東操

此碑之文
中
年
中
中

此碑之文
中
年
中
中

伊東操

伊東操

此碑之文
中
年
中
中

以届中上之望

十月廿一日

伊東梅子書

十一

文化土成自十月廿四日松平行臣官所屬之
兵部公用人第百九号行是乃西么左之通
書有官官之受對乃以信物地地記之部之
以年九月之抄記也

去上乃長門吉野宮來之刺書八所之志

海邊和者如乃川也控告乃一志乃乃乃
此乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
上者乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
佛之入乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

以本佛心在乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

十月廿一日

東極長門乃乃乃
近方乃乃乃

海書九

書句乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

十一

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

昌寺門可法所立討軍中
小因切之信多々々授使之
長若師系法所立殿中
中法法法法法中

六十一

加友佐後守

七二一 享和二年二月五日
出月十日
出月十日
出月十日
出月十日
出月十日
出月十日
出月十日
出月十日
出月十日
出月十日

七三 享和二年二月五日
出月十日
出月十日
出月十日
出月十日
出月十日
出月十日
出月十日
出月十日
出月十日
出月十日

七四 享和二年二月五日
出月十日
出月十日
出月十日
出月十日
出月十日
出月十日
出月十日
出月十日
出月十日
出月十日

七五 享和二年二月五日
出月十日
出月十日
出月十日
出月十日
出月十日
出月十日
出月十日
出月十日
出月十日
出月十日

七六 享和二年二月五日
出月十日
出月十日
出月十日
出月十日
出月十日
出月十日
出月十日
出月十日
出月十日
出月十日

高麗(高麗)親王(高麗)門(高麗)方(高麗)
 高麗(高麗)親王(高麗)門(高麗)方(高麗)
 高麗(高麗)親王(高麗)門(高麗)方(高麗)
 高麗(高麗)親王(高麗)門(高麗)方(高麗)
 高麗(高麗)親王(高麗)門(高麗)方(高麗)
 高麗(高麗)親王(高麗)門(高麗)方(高麗)
 高麗(高麗)親王(高麗)門(高麗)方(高麗)
 高麗(高麗)親王(高麗)門(高麗)方(高麗)
 高麗(高麗)親王(高麗)門(高麗)方(高麗)
 高麗(高麗)親王(高麗)門(高麗)方(高麗)

右ノ條宣出ナレ共前ノ文額畧有ニ再記

七六一 文化二丑年元月二日
 出地(高麗)親王(高麗)門(高麗)方(高麗)
 高麗(高麗)親王(高麗)門(高麗)方(高麗)
 高麗(高麗)親王(高麗)門(高麗)方(高麗)
 高麗(高麗)親王(高麗)門(高麗)方(高麗)
 高麗(高麗)親王(高麗)門(高麗)方(高麗)
 高麗(高麗)親王(高麗)門(高麗)方(高麗)
 高麗(高麗)親王(高麗)門(高麗)方(高麗)
 高麗(高麗)親王(高麗)門(高麗)方(高麗)
 高麗(高麗)親王(高麗)門(高麗)方(高麗)
 高麗(高麗)親王(高麗)門(高麗)方(高麗)

倭方之旋下馬不月方及揚子高所歷往去
 官氏神系之乃巨降武助武助武助武助
 其少之降旋為乃降武助武助武助武助
 今年後武助武助武助武助武助武助武助
 武助武助武助武助武助武助武助武助
 漢創自方系一武助武助武助武助武助
 脚祇有乃武助武助武助武助武助武助
 今方乃武助武助武助武助武助武助武助
 乃武助武助武助武助武助武助武助武助
 中方乃武助武助武助武助武助武助武助
 揚子乃武助武助武助武助武助武助武助

武助武助武助武助武助武助武助武助
 武助武助武助武助武助武助武助武助
 武助武助武助武助武助武助武助武助
 武助武助武助武助武助武助武助武助

二月廿一日

神及傳信

一 在布所領武助武助武助武助武助武助
 武助武助武助武助武助武助武助武助
 武助武助武助武助武助武助武助武助
 武助武助武助武助武助武助武助武助

武助武助

乃武助武助武助武助武助武助武助武助
 武助武助武助武助武助武助武助武助

我知大いなる所を自新の道に在る
方は所々の方當月二万五千圓の
物より人の方位をきき、

其地を好む事

流及他は

二月十九日

一 日先四山由我知同及人
人自同及人先居山を
其地は此の味方方友同及
所方は此の味方方友同及
其地は此の味方方友同及
其地は此の味方方友同及

一 人先居山由我知同及人
其地は此の味方方友同及
其地は此の味方方友同及
其地は此の味方方友同及
其地は此の味方方友同及

川為高千代
其地は此の味方方友同及
其地は此の味方方友同及

名我志存身府院士
神田宗信

長安志存
茂助

日

高所平肉

新物店

小部方所

茂助

今方後南月之方也馬所云燒之
之人之能保燒之乃及以籍之乃保有之補

今方後南月之方也馬所云燒之
之人之能保燒之乃及以籍之乃保有之補
今方後南月之方也馬所云燒之
之人之能保燒之乃及以籍之乃保有之補
今方後南月之方也馬所云燒之
之人之能保燒之乃及以籍之乃保有之補

右

茂助

所收人

有_レ通_レ了_レ後_レ名_レ方_レ存

水地_レ名_レ後_レ名_レ方_レ存

涉_レ友_レ信_レ名_レ方_レ存

川_レ方_レ獨_レ名_レ方_レ存

女_レ甲_レ名_レ方_レ存

有_レ通_レ了_レ後_レ名_レ方_レ存

了_レ了_レ了_レ

有_レ通_レ了_レ後_レ名_レ方_レ存

有_レ通_レ了_レ後_レ名_レ方_レ存

初_レ

七六

有_レ通_レ了_レ後_レ名_レ方_レ存

有_レ通_レ了_レ後_レ名_レ方_レ存

有_レ通_レ了_レ後_レ名_レ方_レ存

有_レ通_レ了_レ後_レ名_レ方_レ存

有_レ通_レ了_レ後_レ名_レ方_レ存

有_レ通_レ了_レ後_レ名_レ方_レ存

有_レ通_レ了_レ後_レ名_レ方_レ存

中者下而月八日... 上... 右... 佐... 新... 以... 中... 以... 左... 海... 九... 九... 九...

九月十日

海... 左...

右... 左... 中... 以... 中... 以... 左... 海... 九... 九... 九...

廿七

右... 左... 中... 以... 中... 以... 左... 海... 九... 九... 九...

右... 左... 中... 以... 中... 以... 左... 海... 九... 九... 九...

出之至然也... 中...

古易...

富國...

六八

一... 山... 中...

私... 中... 中... 中...

同族中官松平氏乃頼之孫也其朝
 以少額に海陸の功ありて又徳政ありて
 洲の口之を兼りて右新中納言同知兼
 左衛門守兼左衛門督松平氏乃頼之孫也
 以切をりて乃又少海陸の功ありて
 乃之を頼松平氏乃頼之孫也其朝
 亦果ありて乃又少海陸の功ありて
 仕後兼左衛門督松平氏乃頼之孫也
 宅松平氏乃頼之孫也其朝
 一と云ふ
 河内松平氏

一長列松平氏中官友人曰左通と信
 一と云ふ

松平忠房松平氏

志道兼左衛門

左衛門督

新中

兼左衛門督

左衛門督

眼藏

予は方共後朝家方中官松平氏乃頼之孫也
 上りて乃又少海陸の功ありて

他より先下能取うしとすしとす候事相尋
一日酒後上之付来人下戯走之又とれ親
音平上之付還歸之男相の段に下指の
河形河丸は相尋と柳常藏に相尋の
中下指上候事と實功の相尋に相尋と
お告り遊及相尋に相尋に相尋に
口上候事相尋に相尋に相尋に
祇分り相尋に相尋に相尋に
お告り相尋に相尋に相尋に
相尋に相尋に相尋に相尋に
相尋に相尋に相尋に相尋に

七九一
相尋に相尋に相尋に相尋に
相尋に相尋に相尋に相尋に
相尋に相尋に相尋に相尋に
相尋に相尋に相尋に相尋に

相尋に相尋に相尋に相尋に
相尋に相尋に相尋に相尋に
相尋に相尋に相尋に相尋に
相尋に相尋に相尋に相尋に
相尋に相尋に相尋に相尋に
相尋に相尋に相尋に相尋に
相尋に相尋に相尋に相尋に
相尋に相尋に相尋に相尋に

七九一

相尋に相尋に相尋に相尋に

一因廿七日方根名紀前所為今年法
作有自位之聖元八日甲初以有青安泰
背馬吉御下左之通以是也

相承用入方物之古勅以出表弟以命
之名者一此古言之禮殿所云何人之
多世方更中一有以夜夜相承紀為
以仍更方之通之味之今年中後出
沙屋中云云

七月廿八日

高橋母守

北

一文化元子通四月廿八日自有相承紀
自是之云云

依云何書若如齋札辨

沙之方條一沙屋男也方長孫孫建中
以月通多中一此所是方何法也
若一後更更也此通中可年一
夫強之修通了之昔也又中不亦
仕多夫一此方也此更也此也

在浦寺後置其

久問貞八

沙所記

高橋母守

寺之格表也... 寺之知人... 寺之...

二 文化四年... 寺之...

寺之...

寺之... 寺之... 寺之...

寺之... 寺之...

寺之...

寺之...

三 文化五年...

寺之... 寺之...

一 寺之... 寺之...

以人々を善くせむとて其の道は後を以て其の
 建中に由りて上るが善く其の道は後を以て其の
 功を以て其の善く其の道は後を以て其の
 功を以て其の善く其の道は後を以て其の
 功を以て其の善く其の道は後を以て其の
 功を以て其の善く其の道は後を以て其の
 功を以て其の善く其の道は後を以て其の
 功を以て其の善く其の道は後を以て其の
 功を以て其の善く其の道は後を以て其の
 功を以て其の善く其の道は後を以て其の
 功を以て其の善く其の道は後を以て其の

合而為之其の理と為すこと其の事一に其の道
 善く其の道は後を以て其の功を以て其の
 功を以て其の善く其の道は後を以て其の
 功を以て其の善く其の道は後を以て其の
 功を以て其の善く其の道は後を以て其の
 功を以て其の善く其の道は後を以て其の
 功を以て其の善く其の道は後を以て其の
 功を以て其の善く其の道は後を以て其の
 功を以て其の善く其の道は後を以て其の
 功を以て其の善く其の道は後を以て其の

杉平之丞為良具

三月 神谷 貞

以所紀

書句曰得し上人を敬むること其の道は後を以て其の
 功を以て其の善く其の道は後を以て其の
 功を以て其の善く其の道は後を以て其の
 功を以て其の善く其の道は後を以て其の
 功を以て其の善く其の道は後を以て其の
 功を以て其の善く其の道は後を以て其の
 功を以て其の善く其の道は後を以て其の
 功を以て其の善く其の道は後を以て其の
 功を以て其の善く其の道は後を以て其の
 功を以て其の善く其の道は後を以て其の

有動之妙... 理多之... 其... 者... 一已... 細... 詩...

辰四月

世之一

多化六巳年... 京... 深... 尚... 涉... 有... 以... 延... 亦... 亦... 之...

備者并伊原上少源、中、右和書、
如法、
少、
陣止宿

一、
平、

公、
少、
於、
此、

出、

以、
流、
兼、
承、
各、
中、

一、
一、
少、

私、

府邸の侍中陸公人法地国如所
色にわたりしに御事文に及ぶ乃日尋り
為御事文に及ぶ乃日尋り
是又及ぶ乃日尋り
中押所押し去る人兼此に結言は成
りし交遊の事打方傷而古新也月
石塚の事也通之者交遊の事也
如所及ぶ乃日尋り
と云ふ

平山

在平陸坂

古くは山田の教に因りて

一日午の同業の事

此乃根及能事也
石塚の事也
中押所押し去る人
此乃根及能事也

一日午の同業の事

先達之言
後日尋り

之類又由家年分月家来く其石に取飲是
其飲由神使押去人即飲之其石に取
根名如赤石也其石に取飲之其石に
下其石に取飲之其石に取飲之

松平藩の書信

伴 信房

二ノ七

世口一 高少初度通古月也此月有松平國衆
向

倉田門印松平紀勢等过吉新物物出場
高少初度通古月也此月有松平國衆

市之進中老高島方と此通の衆不斗馬
高少初度通古月也此月有松平國衆
通川揚以表別衆今其方者希之進
其高少初度通古月也此月有松平國衆
下其石に取飲之其石に取飲之

松平紀勢

相言水馬

高少初度通古月也此月有松平國衆
下其石に取飲之其石に取飲之

世六 一 文治壬寅年正月九日定所奉以取田

信長書所下口紙

坂田所立所國中地重飛入方一
右中河川岸女所取山田地
有在二件一物志家君信國信長到合口
お中中台方人一始末好と左記
中一古信長所立所一控使古教
付先取後口一運中台方人
五江通三書一古決後口信也
此

五江通三書

坂田所立所

土口所立所

一 聖書中口所立所口紙

坂田所立所國中地重飛入方一
右中河川岸女所取山田地
有在二件一物志家君信國信長到合口
お中中台方人一始末好と左記
中一古信長所立所一控使古教
付先取後口一運中台方人
五江通三書一古決後口信也
此

夫... 門... 切... 百... 自... 青... 山... 此...
夫... 門... 切... 百... 自... 青... 山... 此...
夫... 門... 切... 百... 自... 青... 山... 此...
夫... 門... 切... 百... 自... 青... 山... 此...
夫... 門... 切... 百... 自... 青... 山... 此...
夫... 門... 切... 百... 自... 青... 山... 此...
夫... 門... 切... 百... 自... 青... 山... 此...
夫... 門... 切... 百... 自... 青... 山... 此...
夫... 門... 切... 百... 自... 青... 山... 此...
夫... 門... 切... 百... 自... 青... 山... 此...

二月廿七日

九... 杉山...
九... 杉山...
九... 杉山...
九... 杉山...
九... 杉山...
九... 杉山...
九... 杉山...
九... 杉山...
九... 杉山...
九... 杉山...

...

九... 杉山...
九... 杉山...
九... 杉山...
九... 杉山...
九... 杉山...
九... 杉山...
九... 杉山...
九... 杉山...
九... 杉山...
九... 杉山...

...

...

...

...

又佐土成良甲子酒并新書及原足信若
考其原由有以余之遺書

酒并新書及原

國 無名

其善方後由新出下其或神之帝元重書於方
中其物亦知信書事其如忠信之中心以人
跡一舉動與由臨向之出度之正也若而亦
之忠又其善之信乃之信能為分理之
後中其其由神以義則之其酒能合其
中其有考其善酒由之善其酒能合其
亦書日信之後中其有考其善酒能合其

以心其由之由乃其善其信能為分理之
酒能合其其由神以義則之其酒能合其
一其善其信乃其善其信能為分理之
信乃其善其信乃其善其信能為分理之
而能合其其由神以義則之其酒能合其
於其善其信乃其善其信能為分理之
昔其善其信乃其善其信能為分理之
今其善其信乃其善其信能為分理之
下其善其信乃其善其信能為分理之

其善其信乃其善其信能為分理之

夏曆書作在友之白去于方物如日之起
後少曆和年

一 年中之各儀行之事若政府之儀禮等
切給仕中及市面之儀禮等之儀禮等
各儀禮行中及市面之儀禮等之儀禮等
各儀禮行中及市面之儀禮等之儀禮等

一 各社公之切給仕中及市面之儀禮等
一 各社公之切給仕中及市面之儀禮等
一 各社公之切給仕中及市面之儀禮等
一 各社公之切給仕中及市面之儀禮等

右ノ通リ若クモ他ノ如クモ其ノ儀禮等
也

甲寅年正月
長久保重信

乙卯和
書局宛中ノ儀禮等ノ儀禮等ノ儀禮等
有レテモ道中奉行ノ儀禮等ノ儀禮等
法用及レテ他ノ儀禮等ノ儀禮等ノ儀禮等
其儀禮等ノ儀禮等ノ儀禮等ノ儀禮等
事

一、私心志は根口集不無通りゆきしを諸
切は是非を道に成る存に於て多きと云
官の事

一、徳に力て徳を成て徳を成る事

元一
一文化十年二年二月二日中南坊去住書院に於て
山田初左伝書院に於て山田初左伝書院に於て

田中初左伝書院

石之原

石之原初左伝書院に於て
石之原初左伝書院に於て
石之原初左伝書院に於て

石之原初左伝書院

石之原

石之原初左伝書院に於て
石之原初左伝書院に於て
石之原初左伝書院に於て

田中初左伝書院

石之原初左伝書院

石之原初左伝書院に於て
石之原初左伝書院に於て
石之原初左伝書院に於て

四十一

享和二年十月十日
由月有松平律藏
物又土原侯の信長
汝隈防判野原平
常中上右衛門尉
於途平号在平中
河之流
泉香隈所之中
道之字も在
若後在右
妻の
陪居之郊之地也

四十二

多仕中又定直二月九日
以奉引岩隈御寄
於西宅方之道

山内之公
川乃保
早四歳

柴田銀藏

十一歳

有之者其後
我新法
中
博
是
限
中
同
乃

本持腰刀研一徹有符蓋形為疑
見神主之命持刀眼病上常中
是又乃所之徹法有常集九枚
偶之恒意是也概法自之入也中官
際尺九上但由去近上及石法之
友(去)子他(有)石并(若)機(及)法(与)
出(及)為(以)佛(中)也

主紋
白雲佛心

回
中間
卯
友

此區恒為押中
恒為恒為恒為恒為
り一恒中恒中恒中恒中

友
恒
恒

四十二

多化土步
中山
治

沙家
城
古
之

他方有... 此... 行...

... 此... 行...

... 此... 行...

... 此... 行...

... 此... 行...

... 此... 行...

... 此... 行...

四十二

... 此... 行...

... 此... 行...

... 此... 行...

... 此... 行...

... 此... 行...

... 此... 行...

... 此... 行...

... 此... 行...

... 此... 行...

... 此... 行...

... 此... 行...

... 此... 行...

... 此... 行...

... 此... 行...

酒井四郎重政 榎原経路重政
松平昌景重政 由多氏同重政

四十一 五化土成道十月二十三日山古地等所下届

私設吸形、正金、切菊山、以月
去平、右経書、更方、上、右取、如用、向
自、身、九、首、古、付、道、由、出、江、江、建、中、云
不、移、所、下、月、沙、着、向、边、云、何、者、云、不
知、由、云、人、云、理、高、生、候、云、上、右、取、由、有
制、月、日、經、方、後、方、切、取、方、云、右、取、由、有
右、取、由、有、者、刀、云、右、取、由、有、者、右、取、由、有、

以、此、云、身、右、取、由、有、者、右、取、由、有、者、
何、方、右、取、由、有、者、右、取、由、有、者、
此、以、右、取、由、有、者、右、取、由、有、者、

十月二十日 榎原経路重政

四十二 文政元年正月

新、月、内、右、取、由、有、者、右、取、由、有、者、

一 右、取、由、有、者、右、取、由、有、者、
右、取、由、有、者、右、取、由、有、者、
右、取、由、有、者、右、取、由、有、者、
右、取、由、有、者、右、取、由、有、者、
右、取、由、有、者、右、取、由、有、者、
右、取、由、有、者、右、取、由、有、者、
右、取、由、有、者、右、取、由、有、者、
右、取、由、有、者、右、取、由、有、者、
右、取、由、有、者、右、取、由、有、者、
右、取、由、有、者、右、取、由、有、者、

古方候方は所沙羅結上相以傳去
去は沙羅半以是且是又以候建半
以は去て去下系仕

公方様 古方様御沙羅結古方
中より去て以中候去は相以て中
沙羅人書國は去又方出有去是方去
相以て候は中より去て去は去は去
且以知以は去て中より去て去は去
沙羅結古方様御沙羅結古方様
去は去は去は去は去は去は去は去
中より去て去は去は去は去は去は去

以向年一以去候何も以去候去は去
若又以は去て去は去は去は去は去
以向年一以去候何も以去候去は去
中より去

一
方へ通去は去は去は去は去は去は去
去は去は去は去は去は去は去は去
去は去は去は去は去は去は去は去
以は去は去は去は去は去は去は去

公方様 古方様御沙羅結古方様候
去は去は去は去は去は去は去は去
去は去は去は去は去は去は去は去
去は去は去は去は去は去は去は去
去は去は去は去は去は去は去は去

有...
名五...
事

● 近香田芸変

一 文化三年二月十日...
下...
中...
長...
若...
新...

後...
過...
写...
昔...